

- 1 原子力発電の仕組み・安全対策
工事の概要説明(約40分)
- 2 展示ホールの見学
(約30分)
- 3 展望台から発電所構内を
見渡す(約30分)
- 4 バスで発電所構内を
間近で見学(約50分)

茨城県の約3分の1（約37万世帯）の発電設備を有する東海

学校は苦手だけど、暮らしに関するのなら興味ある!

3

見たことのない景色でしたので、ある意味私にとっては絶景。原子炉建屋を中心に高層ビルの建設中と見えるのは普通の、作業員の数と空にそびえたつ何台ものクレーン車には驚きました。個人的には深いところで30mほど掘り出した土などを積み上げた土の山の大きさが印象に残りました。撮影はNGでしたのでしっかりと焼けてきました。

A close-up photograph of a hand pointing to a vertical bar on a chart. The chart has several vertical bars of varying heights, and the hand is pointing to the second bar from the left. The chart is part of a larger graphic with a speech bubble and a green background.

高圧電源装置や塩の
基礎建設中!
ジブボット機が
乗っても大丈夫な構造!



展示ホールに入ります。
楽しみー。

2

事前に予約して、
ここで受付。

館内は薄暗く、幻想的な空間で一気にはその世界観に引き込まれていきました。日本原子力発電株式会社は原子力発電のバイオニアらしく、東海発電所は、商業炉として日本第一号です。電気の需要は年々増加しており、無くてはならないエネルギーの一つ。そのエネルギーが誕生するまでの歴史、発電する仕組みを一挙に学べる場所でした。

次に、発電所構内へ出発です！東京ドーム約8個分もある広い場所の見学はバスでの移動でした。何十本もそびえ立つ日

本最大級のクレーンを目前にすると工事規模の大きさに驚かされます。発電所を高波から守る分厚く高い壁の防潮堤を目の当たりにした時、とても頑丈そうで安心しました。他にも、地中にさまざまな設備を建設していて、下の岩盤と一体化させて丈夫な設備とするようです。地中を掘った土はか所に集められておりその量は肝巻の景色でした。

見学会に参加してみても身近にある電気や放射線のことに関心が持てたことが良かったと思います。発電所構内の撮影はできませんので、貴重な体験を記憶に焼き付けて帰りました。

A smiling woman with short brown hair, wearing a white sweater, is holding a pregnancy test stick in her right hand. In the background, there is a box of pregnancy tests and a red arrow pointing to one of the tests.

見学会の開催日程は、下記の
QRコードからご確認ください。



今回は取材目的で特別に撮影許可をもらっています。
一般の見学会参加者の場合は撮影不可となりますので、
予めご了承ください。

また、参加対象は18歳以上となります

4

津波の最高予測 標高17.1mに余裕を持たせて、発電所の周囲を取り囲むように設置された高さ最大20mの防潮堤。その防潮堤の中に直径約2.5mの鋼管杭が岩盤まで深いところでは地下約60mまで埋め込まれているそうぞう。万が一、防潮堤を超える津波が来てしまった場合でも重要な施設は海水が流入しないように水密化したし、津波の影響を受けない高台や地下にも設置をしているようぞう。



国内最大級のクレーン
デカすぎ! 工事従事者は
1日約2000人!

防潮堤

〔テラ channel〕 6